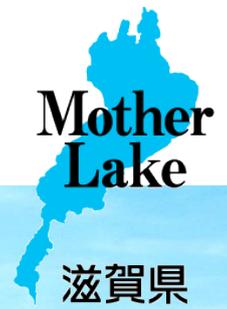




琵琶湖システム
 琵琶湖に育まれる 漁業と農業が織りなす



魚のゆりかご水田プロジェクト



湖魚が産卵・成育できる、
 かつての水田環境を取り戻そう！

琵琶湖からやってきた魚が
 田んぼでいのちを
 育てています



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



Mother Lake Goals
 愛さよう、あなたと私から



琵琶湖とつながる滋賀県の田んぼは
 いのちの宝庫…
 小さな魚の赤ちゃんも、そして人も
 安心して暮らせる田んぼの環境を取り戻す
 プロジェクトです

魚のゆりかご水田プロジェクトとは？

昭和40年頃まで

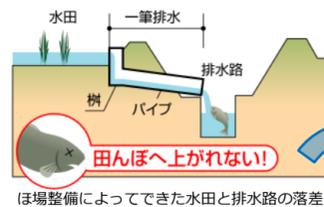
- 湖岸の田んぼは、琵琶湖水位の変動の影響を受けやすく、浸水被害に見舞われたり、田舟による農作業を余儀なくされるなど、農家は大変苦労されていました
- 一方で、琵琶湖とつながる湖岸の田んぼは、えさになるプランクトンが豊富であたたかく、湖魚の産卵・成育に格好の場所であり、まさに『魚のゆりかご』としての役割を担っていました



かつての農作業風景
写真提供：琵琶湖博物館
昭和29年藤村和夫氏撮影

昭和40年代から現在にかけて

- ほ場整備により、生産性の向上や農家経営の改善が図られました
- 一方で、田んぼを畑としても利用できるよう乾田化を進めるために水路を深くしたこと、魚が田んぼに遡上しにくくなりました



今、そしてこれから…

- 滋賀県では、農業生産性を維持しながら、魚が産卵・成育できる水辺の環境を取り戻す『魚のゆりかご水田プロジェクト』に取り組んでいます
- 魚道を設置することにより、排水路の水位を階段状に田んぼの高さまで上げることができます。こうすることで、琵琶湖から遡上してきた魚は、田んぼへ入ることができます

魚のゆりかご水田カレンダー

4月



魚道設置

5月（代かき・田植え）



堰板が設置された魚道（堰上式）



設置された魚道（一筆型）

排水路に魚道を設置します。魚道を設置することで、田んぼからの濁水が直接、琵琶湖に流入することを抑えることもできますので、代かき前に堰板を設置します。魚道には、排水路ごと水位を階段状に上げていく堰上式と一筆ごとに設置する一筆型とがあります。



魚の遡上を待つ魚道と田んぼ



排水路を遡上するフナ



排水路を遡上するナマズ

雨が降ると、魚道をとって魚が琵琶湖から田んぼをめざして遡上します。田んぼでは深水管理をしたり、少雨時には一筆排水の堰板を操作するなどして、魚を受け入れる準備をします。

6月中旬（中干し）



排水路から田んぼへ入るフナ



田んぼで産卵するフナ



人工魚巢に産み付けられたフナの卵
写真提供：滋賀県水産試験場



ふ化したてのフナの仔魚



田んぼを遊泳するフナの稚魚



溝切り

田んぼに入った親魚は、すぐに産卵します。田んぼは、水温が高いため産卵に有利とされています。

田んぼは、エサとなるプランクトンがたくさんいますので、稚魚は早く大きくなります。

稚魚が排水路へ流下しやすくなるよう溝切りをするなどの工夫をしています。

6月下旬



魚道の堰板撤去



一筆排水柵から排水路へ流下する稚魚



流下する稚魚の観察



約2cmに成長したフナの稚魚

排水路の堰板を撤去します。

稚魚は、約1ヶ月で2cm程度に成長します。一筆排水柵から排水路へ流下した稚魚は、堰板を外した排水路をとって琵琶湖へとかえっていきます。



魚のゆりかご水田は、五方によし！

田んぼはエサが豊富で、外来魚がないため、稚魚の生残率（稚魚数／産卵数）は約30%と高く、稚魚の成育に適した環境です。



子どもによし

近年、子ども達が田んぼや畑に近づく機会が減っています。田んぼに魚がいることで、子ども達も田んぼや米づくりに興味を持つようになります。



地域によし

生きものによし



魚道づくりや生きもの観察会など、多くの人が田んぼを訪れるようになり、人と人との交流が生まれます。

農家によし

排水路に魚道を設置することで、田んぼからの水を一時的に溜めることができ、琵琶湖へ濁水が流入するのを抑えることもできます。



琵琶湖によし



魚のゆりかご水田米



滋賀県による「魚のゆりかご水田米」の認証を受け、ブランド米として販売されています。

ニゴロブナと田んぼの関係

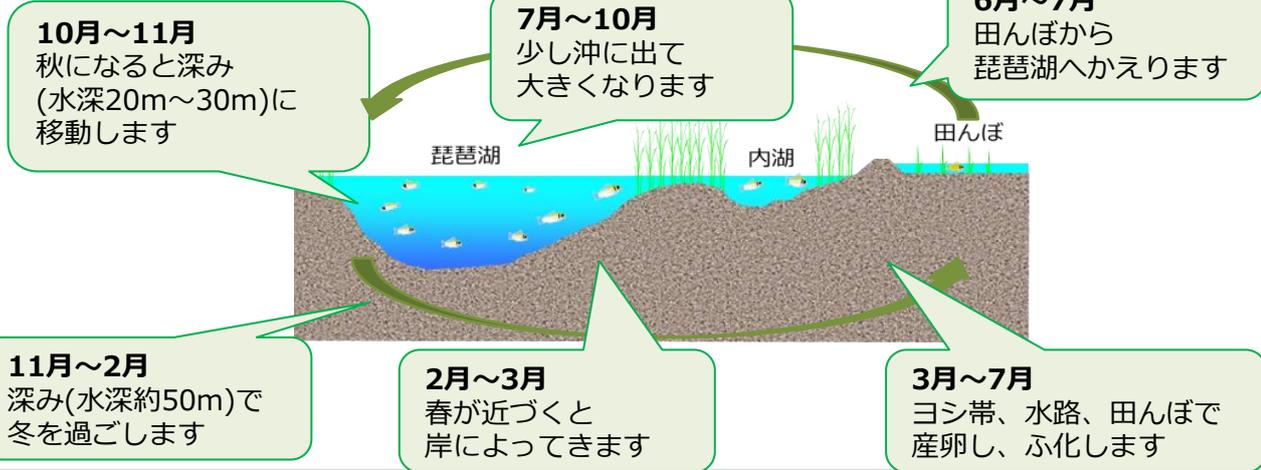
- 琵琶湖は、400万年の歴史を持つ世界有数の古代湖で、多くの固有種が生息しています
- そのなかの一種、ニゴロブナは、人々が湖辺に住み始めるはるか昔から、湖辺の湿地帯（ヨシ帯や一時的に水域となる浅瀬）を産卵の場としていました
- 人々が湖辺で米作りをするようになってからも、ニゴロブナのその営みは変わらず、田んぼを産卵に最適な場所として利用するようになりました
- 現代でも、春…代かきを終えた田んぼに水が張られるころ、ニゴロブナは産卵のために田んぼをめざします



ニゴロブナ

写真提供：琵琶湖博物館

なぜ魚たちは田んぼをめざすのかな？



『魚のゆりかご水田米』とは？



このマーク
が目印です

- ・ 田んぼで、魚の赤ちゃんと一緒に育った、安心・安全のお米です
- ・ 次のような取組等を行っていることを確認し、滋賀県が認証しています

環境こだわり農産物※の
認証を受けています



- ※次の3つを守って作られた農産物を滋賀県が認証するものです
- ・ 農薬や化学肥料の使用量を通常の半分以下に減らす
- ・ 琵琶湖や周辺の環境にやさしい技術で栽培する
- ・ いつ、どんな農薬や化学肥料を使用したか記録する

魚の赤ちゃんが田んぼで繁殖しているか、現地で確認しています



田んぼでふ化・成育した魚の赤ちゃんが琵琶湖にかえられるよう、田んぼの水を一時的に抜くとき(6月ごろの中干し期)に“溝切り”をする、などの工夫をしています

遡上してきた魚が田んぼに進入できるように魚道やその附帯施設を適正に設置・管理しています



どんなお米ができるのかな？



■「魚のゆりかご水田プロジェクト」問い合わせ先

滋賀県農政水産部農村振興課

〒520-8577 滋賀県大津市京町四丁目1-1
電話：077-528-3963 FAX:077-528-4888
メール：gh01@pref.shiga.lg.jp

大津・南部農業農村振興事務所田園振興課

〒525-8525 滋賀県草津市草津三丁目14-75
電話：077-567-5415 FAX：077-564-2510
メール：gh35@pref.shiga.lg.jp

甲賀農業農村振興事務所田園振興課

〒528-8511 滋賀県甲賀市水口町水口6200
電話：0748-63-6121 FAX：0748-63-6139
メール：gh32@pref.shiga.lg.jp

東近江農業農村振興事務所田園振興課

〒527-8511 滋賀県東近江市八日市緑町7-23
電話：0748-22-7722 FAX：0748-23-4912
メール：gh37@pref.shiga.lg.jp

湖東農業農村振興事務所田園振興課

〒522-0071 滋賀県彦根市元町4-1
電話：0749-27-2222 FAX：0749-24-6229
メール：gh32@pref.shiga.lg.jp

湖北農業農村振興事務所田園振興課

〒526-0033 滋賀県長浜市平方町1152-2
電話：0749-65-6622 FAX：0749-64-1597
メール：gh33@pref.shiga.lg.jp

高島農業農村振興事務所田園振興課

〒520-1621 滋賀県高島市今津町今津1758
電話：0740-22-6034 FAX：0740-22-4393
メール：gh34@pref.shiga.lg.jp

